

編集後記

- ◇ 気象庁は、4月25日に5～7月までの3ヵ月予報を発表した。それによると、今年の夏はエルニーニョ（南米沿岸など太平洋西部の海面水温が平年より高くなることで、日本付近の海水温が低下し冷夏を引き起こす現象。）の影響で、北海道から東北にかけての北日本の気温は平年並か低く、冷夏の恐れがあるという。その要因は、偏西風が南下し太平洋高気圧も平年より弱いため、梅雨明けも遅くなる見込みと予報している。

3ヵ月予報どおりに推移すれば、2月の関東を中心とした異常な降雪被害に続いて、今夏も北日本での冷害による農作物被害が懸念される。

- ◇ 一般財団法人いも類振興会の平成26年度第1回通常理事会は5月15日、定時評議員会は5月27日にそれぞれ開催され、平成25年度の事業報告書および財務諸表（決算書）を承認いただいた。平成25年度は一般財団法人へ移行しての初年度目であったが、事業運営上では特に問題もなく、ほぼ事業計画どおりの執行ができた。

平成25～26年度の新規事業である「焼きいも事典」の編集作業は、現在、原稿の提出が終了し、原稿内容の事実確認、わかりやすい表現にすべく修文作業に入っている。計画どおりに編集作業が進むと、平成26年度末までには刊行の見込みだ。

- ◇ 「平成25年度いも類講演会」は、平成26年3月18日に一般財団法人いも類振興会と日本いも類研究会の共催により東京の南青山会館で開催され、61名の参加者があった。

講演会終了後の「情報交換会」にも43名の参加をえて、いも類に関する情報交換のほか、いも類にまつわる熱い想いを楽しく語り合う場となった。

本誌No.120の特集は「平成25年度いも類講演会から」と題して、その講演要旨を主体に講師4名の方々に取りまとめていただいた。最近におけるサツマイモ、ジャガイモの動向に関する理解の一助となれば幸いである。

- ◇ 昭和期までは、北海道でのサツマイモの作付実績はほとんどなく、話題にものほらなかった。平成期に入って地球温暖化の影響などもあり、近年では道南を中心に作付面積が徐々に広まりつつある。

これまではその実態が十分把握されていなかったもので、今回、道総研の高濱雅幹さんに「北海道におけるサツマイモの生産と試験研究の現状」について、寄稿をお願いした。これによって、現段階における北海道のサツマイモ事情を把握することができた。引き続き、その生産動向に注目していきたい。

（狩谷 昭男）

いも類振興情報 第120号

2014(平成26)年7月15日発行

定価 1部 500円
年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp
郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社